

論文要旨

経営学研究科
経営学専攻 修士課程
アカウントティング・ファイナンスコース
松尾 香那子

本論文は、2005年1月から2019年12月までに新興3市場に上場した企業を対象として、新規株式公開におけるロックアップのうち、株価と連動して解除される「株価連動型」ロックアップを採用する企業の決定要因、また、ロックアップ解除時の株価パフォーマンスに与える影響を明らかにしたものである。

その結果、VC 持株比率の高い企業ほど「株価連動型」ロックアップを採用すること、ネガティブなシグナルである売出比率が高い企業ほど「株価連動型」ロックアップを採用しない傾向が確認された。また、「株価連動型」の条件を付しているにも関わらず、株価が指定倍率に到達しなかったために固定日にロックアップが解除される場合、従来の「期間固定型」ロックアップよりも大きな株価下落が生じるという実証結果を得た。また、役職員の保有株式よりもVCの保有株式のロックアップが解除された場合のほうが株価下落は顕著であることが示された。